

平成 26 年度海外短期研修報告書

オーストラリア春期英語研修（平成 27 年 2 月 23 日～3 月 20 日）

都市教養学部都市教養学科法学系 1 年 渋谷 奏里

私は一年次の後期に英語力向上や異文化体験を目的として短期英語研修に応募しました。いくつかあったプログラムの中でも滞在形態が一か月間のホームステイであったことや治安の良さなどからオーストラリアを選択しました。

研修の中でのメインは現地の大学でネイティブの先生から生の英語を学ぶことでした。私たちはマッコーリー大学というシドニー中心部から電車で 30 分ほどのところにある大きな大学の中にある ELC という語学留学生のためのキャンパスに通っていました。ほかの大学から来ていた日本人や、中国人、韓国人、アラブ人などととともに約 20 人のクラスで 8:30 から 13:00 まですべて英語で文法を中心とした授業を受けていました。私のクラスでは国籍を混ぜた 4～5 人で日ごとにグループを組んでその日に学ぶ文法の内容や先生から提示されたテーマに関して行うディスカッションの時間が多くスピーキングの良い訓練になっていました。英語が母国語でない各国の学生と英語で議論を行うことは大変難しくはありましたが、言いたいことが伝わらないことで逆に自分の発音やアクセントの癖などがはっきりわかり良い勉強になりました。



教室の中で行われる授業の他には滞在中に 2 度エクスカージョンとして図書館の見学に行ったりクラス全員とビーチで BBQ をおこなったりもしました。スピーキング中心の授業かつこのようなエクスカージョンもあったためクラスメイトはもちろんのこと ELC に通っていたたくさんの学生たちと帰国後の今でも関係が続いているようなとてもいい交流が持てたことはマッコーリー大学の大変良い特徴だったと思います。

さらに、オーストラリア研修にはバディ制度があり現地で日本語を専攻している学生との交流の機会も持たせていただくことができました。最初にそのような機会を持たせていただいたことで休日に観光案内をしてもらったり一緒に食事をしたりと、4 週間という決して長くはない滞在でしたが絆を深めることができました。

オーストラリア研修の一番の特徴は滞在形態がホームステイだったことです。家庭によって家族構成は違いましたが私のホストファミリーには小さな子供たちがいたので、家では

彼らと話したりお互いの文化の遊びや習慣を教えあったりしていました。ホストファミリーは忙しいことが多く休日と一緒に出かけたりすることはあまりできませんでしたが全員がそろそろ夕食時には積極的に会話をしていました。最終週にはルームメイトと一緒に日本食を振舞ったりと、ホームステイならではの体験もできました。首都大生は全員違う家庭にステイしていたのですが、家庭によって生活習慣や食事などが大幅に違っている部分もありオーストラリアが多民族国家であるという特性をホームステイすることによってより強く実感することができ、異文化理解という留学の一つの大きな目的を達成することにもつながったのではないかと思います。



春休みの研修では現地は夏だったため休日は現地でできた友達などと一緒に観光したりビーチに行ったりして過ごしていました。シドニーは先にも書いたように多民族国家であるため街中にもたくさんの国籍の人々がいて最初は驚いていましたが、それを理解し慣れていくにつれてどんな人種や国籍でも受け込むことのできるそのような環境での生活しやすさも感じました。

私が今回の研修で一番強く実感として学んだことは海外で生活する上での態度です。私は基本的な英語を聞いて理解することができる程度のレベルでの参加だったのでホストファミリーや現地で出会う人たちとうまくコンタクトがとれるかどうかや授業をこなすことができるかどうか不安をもっていました。しかし実際に海外での生活という環境に入ってしまうと自分から積極的に周りの人たちとコミュニケーションをとっていかなければ何も進まなくなってしまう。これは滞在中の多くの場面で実感しました。積極的にコミュニケーションをとろうという姿勢が重要であるということは滞在中に実感しましたが海外にいる間だけでなく、普段の生活の中でもあらゆる場面で必要であることは明らかだと思います。だからこそ、日本よりもシビアな環境でその姿勢を学べたことは大きな価値があったと思っています。これらのすべてのことを含めてシドニーでのこの4週間の経験は英語力の向上だけにとどまらず様々な面で私にとってかけがえのないものとなっています。